

旧約聖書を読んで感じること (100) ユダ王国滅亡

ヨシヤは、台頭するバビロンを覗い、アッシリアのカルケミシュの町を攻めると言って通りかかったエジプト王ネコ(歴下 35:20)の忠告も聞かず、無謀な戦闘を仕掛け、死にました。預言者エレミヤはヨシヤの死を悼み、哀歌を捧げました。ヨシヤの子**ヨアハズ**が即位しても、怒るエジプトは、ヨアハズをエジプトの陣地とした北方のリブラに幽閉し、科料を課しました。ヨアハズはそこで死にました。

エジプトは、ヨアハズの異母兄弟エルキヤを**ヨヤキム**と改名させ、王としました。やがて、アッシリアを凌駕し、エジプトに脅威を与え、力をつけたバビロンの王ネブカドネツアルが攻めてきて、ヨヤキムに青銅の足かせをはめ、バビロンに引いて行きました。その子**ヨヤキン**が王となりました。

再びバビロンの部将たちが都を包囲しているところに、バビロンの王ネブカドネツアルが…主の神殿の宝物と王宮の宝物をことごとく運び出し…すべての高官とすべての勇士一万人、それにすべての職人と鍛冶を捕囚として連れ去り、残されたのはただ国の民の中の貧しい者だけであった。彼はヨヤキンを捕囚としてバビロンに連れ去り、その王の母、王妃たち、宦官たち、国の有力者たちも、捕囚としてエルサレムからバビロンに行かせた。(列下 23:10)若い王ヨヤキンもバビロンの捕囚となりました。

ネブカドネツアルは、ヨアハズの弟**ゼデキヤ**を即位させるとともに、いくつかの貴重な神殿の祭具と農地をゼデキヤに残していきました。ゼデキヤは二十一歳で王となり、十一年間エルサレムで王位にあった。彼は自分の神、主の目に悪とされることを行い、主の言葉を告げる預言者エレミヤの前にへりくだらなかつた。彼はまた、神の名にかけて彼に誓わせたネブカドネツアル王に反逆し、強情になってその心をかたくなにし、イスラエルの神、主に立ち帰らなかつた。(歴下 36:11)子ども達は誰一人、父ヨシヤの信仰を受け継ぐことはなく、主の言葉を聞くことはありませんでした。エジプトの科料に苦しみ、バビロンに宝物を奪われつくし、両大国の板挟みとなり、苦しんできたのです。ゼデキヤはとうとうバビロンに反旗を翻しました。ネブカドネツアルは全軍を率いてエルサレムを包囲しました。

預言者エレミヤは最終的にはネブカドネツアルにも終わりの時がくるから、今は「首を差し出して、バビロンの王の轡を負い、彼とその民に仕えよ。そうすれば命を保つことができる。どうして、あなたもあなたの民も、剣、飢饉、疫病などで死んでよいであろうか。」(エレ 27:12)とバビロンに降伏するように助言しましたが、勝算があると主張する預言者ハナンヤの言葉にゼデキヤは従い、エレミヤを投獄しました。ゼデキヤは自分の民をも苛酷に扱い、バビロンに投降した者も多くいました。彼らの報復も恐れませんでした。エジプトからの支援もありませんでした。

ゼデキヤ王の第十一年に至った。その月の九日に都の中で飢えが厳しくなり、国の民の食糧が尽き、都の一角が破られた。カルデア人が都を取り巻いていたが、戦士たちは皆、夜中に王の園に近い二つの城壁の間にある門を通過して逃げ出した。王はアラバに向かって行った。カルデア軍は王の後を追ひ、エリコの荒れ地で



バビロンへ引かれていく James Tissot,

彼に追いついた。王の軍隊はすべて王を離れ去ってちりぢりになった。王は捕らえられ、リブラにいるバビロンの王のもとに連れて行かれ、裁きを受けた。彼らはゼデキヤの目の前で彼の王子たちを殺し、その上でバビロンの王は彼の両眼をつぶし、青銅の足枷をはめ、彼をバビロンに連れて行った。(列下 25:2)

神殿の祭具はことごとく奪われ、破壊され、民は捕囚となりました。貧しい民の一部がぶどう畑と耕地にそのまま残されたただけでした。ユダの王国は紀元前586年に、430年余りの歴史を閉じ、滅亡しました。

ユダの地はバビロン王国の一部となり、民はさまよえるユダヤ人として生きることになりました。